

改訂された防災情報

こあんしき 居安思危 ～その2～

居安思危 思則有備 有備無患

～ 安きに居りて危うきを思う 思えばすなわち備えあり 備えあれば患い無し ～

(出典「春秋」の注釈書「春秋左氏伝」)

防災情報の伝え方が変わりました！

最近、日本各地でこれまで経験したことのないような集中豪雨や局地型豪雨が発生しています。今年も7月に入って九州地方を中心に観測史上初となる大雨を記録し、土砂災害や水害が発生しています。

災害が予想されるような大雨や台風などの場合は今までも避難に関する情報が自治体から出されていましたが、自治体が出す防災情報がわかりづらく、実際の避難行動に結びつかないことが多くあったので、今年の3月に「**避難勧告等に関するガイドライン**」が改訂されました。

新しいガイドラインでは「**自らの命は自らが守る**」という意識を持って、避難行動を取るという方針が示され、この方針に沿って自治体や気象庁等から発表される防災情報を5段階の警戒レベルを明記して提供されることになりました。(右図参照)

今年に入梅が非常に遅かったですが、長期予報では7月は平年よりも雨が多くなる見通しです。梅雨の終わりには局地的な雷雨も予想されます。まずは自分の住んでいる地域のハザードマップを確認し、地域に想定されている災害を知り、どのタイミングで避難を開始するのかをシミュレーションしてみてください。適切な避難行動を取ることで、あなたとあなたの家族や大切な人を守ることができます。そして、避難する時には近くにいる人に「**あぶないから避難しよう！**」と声をかける**率先避難者**になってくださいね。

～ 情報は待つのではなく、自分で取りに行こう ～

■詳しく知りたい方は

内閣府 防災情報のページ

内閣府 避難勧告

http://www.bousai.go.jp/oukyu/hinankankoku/h30_hinankankoku_guideline/index.html



スマホ用
二次元コード

水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を、5段階※1に整理しました。

<避難情報等>		<防災気象情報>
警戒レベル	避難行動等	避難情報等
警戒レベル5	既に災害が発生している状況です。 命を守るための最善の行動 をとりましょう。	災害発生情報 ※2 ※2 災害が実際に発生していることを把握した場合に、可能な範囲で発令(市町村が発令)
警戒レベル4 全員避難	速やかに避難先へ避難しましょう。公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や、自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) ※3 ※3 地域の状況に応じて緊急的又は重ねて避難を促す場合に発令(市町村が発令)
警戒レベル3 高齢者等は避難	避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難をしましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	避難準備・高齢者等避難開始 (市町村が発令)
警戒レベル2	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの 避難行動を確認 しましょう。	洪水注意報 大雨注意報等 (気象庁が発表)
警戒レベル1	災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報 (気象庁が発表)

【警戒レベル相当情報(例)】

警戒レベル5相当情報
氾濫発生情報 大雨特別警報 等

警戒レベル4相当情報
氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等

警戒レベル3相当情報
氾濫警戒情報 洪水警報 等

これらは、住民が自主的に避難行動をとるために参考とする情報です。

(国土交通省、気象庁、都道府県が発令)

※1 各種の情報は、警戒レベル1～5の順番で発表されるとは限りません。状況が急変することもあります。

今日、家族で確認して欲しいこと！

- 自宅の作りは？**
 - マンション 鉄筋 鉄骨 _____階に住んでいる
 - 一戸建て 平屋 2階建て 3階建て _____に住んでいる
- 家族構成は？**
 - 小さな弟妹がいる
 - おじいちゃん、おばあちゃんがいる
- 自宅の近くに何がある？**
 - 川 崖 山 海 その他
- 避難場所はどこ？**
 - 避難場所に行く道筋をCHECK！
 - 警戒レベル_____になったらうちの家族は_____へ避難！

★ハザードマップを確認！ ★警戒レベル4は全員避難です！

天気予報はいつ見る？

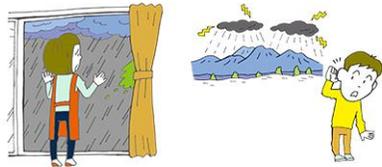
明日は晴れるかな～？暑いのかな？傘は持っていったほうがいいのかしら、とこの季節、毎日のお天気は気になりますね。保健室でも雨が降ったり、湿度が高く、蒸し暑い日には来室者が多くなり、お天気は気になる情報のひとつです。



みなさんは天気予報をいつ見ますか？

気象庁では毎日 5 時・11 時・17 時に天気予報を発表しています。ですから屋外での活動を予定している人は前日の 17 時以降に翌日の天気予報を確認し、当日の 5 時以降に再確認するとよいということになります。短縮期間で午後からの活動が増える 8 日以降は念のために 11 時を過ぎたらもう一度確認しておきましょう。

天気予報で「雷を伴う」「大気の状態が不安定」「竜巻などの激しい突風」といった表現が使われていた場合は積乱雲が発達しやすい気象状況ですので、天気の急変に備えてこまめに天候をチェックしてください。



積乱雲は強い上昇気流によって鉛直方向に著しく発達した雲です。夏の風物詩でもある入道雲も積乱雲です。発達した積乱雲（雷雲）は雷を伴う急な大雨をもたらします。急激に短時間に狭い範囲で雨が降りますので、降り始めから時間を置かず河川が増水したり、アンダー

パス（線路や道路をくぐる地下道）などの低い場所が冠水し、災害につながる可能性があります。また、自分たちのいる場所では雨が降っていなくても、川の上流で降った大雨により急に川が増水し、事故につながることもあります。

急な大雨のときには、雷が発生することも多くあります。雷は雷雲や積乱雲の位置次第で海面、平野、山岳など場所を選ばずに落ちます。グラウンドなどの周囲の開けた場所にいると雷雲から直接人体に落雷（直撃雷）することがあり、直撃雷を受けると約 8 割の人が亡くなります。また、落雷を受けた樹木などのそばに人がいるとその樹木などから人体へ雷が飛び移る（側撃雷）ことがあります。木の下で雨宿りをしていて雷に打たれて死傷する事故は、ほとんどがこの側撃雷が原因です。遠くで雷の音がしたら既に危険な状態です。すぐに安全な建物の中に避難しましょう。

気象庁では 1 時間先までの降水、雷、竜巻などの状況を予想した分布図（ナウキャスト）を発表していますので、天気の急変が心配な場合はこまめに確認してください。また、大阪府では「大阪防災ネット」に登録すると必要な情報がメールで送られてきます。ツイッターでの情報発信（https://twitter.com/osaka_bousai）もしていますので、府内での活動の際にはぜひ利用してください。

大阪防災ネット

毎年起こる台風被害から身を守ろう

7 月から 10 月にかけては日本に接近・上陸する台風が多くなり、大雨、洪水、暴風、高潮などの被害をもたらします。また、台風に伴う大雨によって川の氾濫や山崩れ、がけ崩れなどが発生しやすくなります。台風の被害から身を守るため、日ごろから対策を立てておきましょう。

1. 台風が来る前に

台風が接近してから屋外へ出るのは危険！情報を利用して台風が来る前に対策を！

* 家の外の備え！

- ✓ 窓や雨戸は閉めて、補強しておく。
- ✓ 溝や排水溝は掃除して水はけをよくしておく。
- ✓ 植木鉢やごみ箱などの飛ばされそうなものは屋内に入れておく。



* 家の中の備え！

- ✓ 割れたガラスの飛散を防ぐために、ガラス窓に保護フィルムを貼ったり、カーテンやブラインドをおろしておく。
- ✓ 非常用品の確認をする。
- ✓ 断水に備えて飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。

* 避難場所の確認！

- ✓ 学校や公民館など、避難場所として指定されている場所への避難経路を確認する。

2. 台風が接近しているとき

* 台風情報に注意！

- ✓ 注意報・警報に気をつける。
- ✓ 危険な場所に近づかない。
- ✓ 雨で増水した小川や側溝は境界線が見えなかったり、冠水した道路上では浮き上がったマンホールも見えにくかったりするため、転落事故が多発する。また、山崩れ・がけ崩れも起こりやすくなるので、日ごろ安全な場所でも油断せず、このような場所にはむやみに近づかない。
- ✓ 避難のタイミングを逃さない。



3. 台風が上陸後

* **家から出ない！** 特に、海岸・川岸付近は危険！

* **警戒は警報や注意報が解除されるまで！**

- ✓ 台風が通り過ぎたり、熱帯低気圧に変わったりしても、吹き返しの強い風が吹いたり、雨が続きたりすることがあります。